

カトリック 仙台教区報

2006年3月26日 No.168
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

祝 マルチノ 平賀徹夫司教、誕生 「光の子として歩もう」

教区挙げて喜びの叙階式

私たちが一年半も待ち続けた司教がようやく誕生した。

昨年12月10日に司教に選任された平賀徹夫被選司教の叙階式は3月4日(土)、

仙台白百合学園講堂で、駐日教皇大使をはじめ、全教区の司教、

総代理、仙台教区司祭、信徒など、約1500人が参列する中で盛大に行われた。

好天に恵まれた当日、青森、岩手、宮城、福島各県から信徒の約一割が列席し、

教区司祭出身初の司教誕生を祝った。また、前任の溝部司教が教区長である高松教区からも多数の信徒が参列し仙台教区民のために喜び祈ってくれた。

主司式者の東京大司教区 岡田武夫大

司教の授手と叙階の祈りに続いて、司教のしるしとなる指輪、ミトラ(司教帽)バクルス(司教杖)を受け、司教団から歓迎の握手を受けた後、司教座に着座すると、会場からは大きな拍手が湧き上がった。



準備に精を尽くされた方々への感謝を述べられた後で、次のように話された。

「私たちは仙台教区が一つの教会として、教会があるという意味を表しながら進んでいきたい。そのキーワードは「愛」です。神様がキリストを通して示してくださった愛を存分に味わいながら、ここにその愛が注がれているということを感じながら、この恵みが注がれているという現実を示す教会として、神様が力強く私たちを導いてくださることに信頼するのが第一、そして私たちが互いに受け入れあい、許しあい、支えあいながら一つになっていく、そういう教区を作ることができたらと願います。」

私には足りないところがたくさんあります。皆さんはそれを知っておられます。どうぞ、惻隱の情を持って助けてくださりながら一つになって仙台教区の新しい一歩をつくりあげて行きましょう。本日は本当にありがとうございます。」

式の後、ステラマリス(食堂)に会場を移して、祝賀会が行われ、信徒たちが親しく平賀司教様にお祝いの言葉をかけたり、記念写真を撮ったりしていた。司教様も終始笑顔で対応されていた。

仙台教区の新 たな一歩を踏み出す記念すべき一日であった。



平賀司教の紋章

上方の帽子はカトリック教会における責任者であることを示し、帽子から下がる房の段数は、教区司教の場合3段となっている。十字架はキリストの死と復活をあらわす。

神のいのちにあずかって生きるために用意された糧である聖体(左上)と聖書(右上)。中央のブナの木は、神の恵みによる豊かな東北の自然を象徴している。

平賀司教のモットー「光の子として」(Ut FILII LUCIS)が下方にラテン語で書かれている。

Ut filii lucis ambulamus,
probantes quid sit beneplacitum
Deo

光の子として歩もう、
何が主に喜ばれるかを吟味しながら。(エフェソ5:8b,10)

神の愛を伝える人に

叙階式 説教 東京大司教区 岡田武夫大司教



皆様、わたしたちキリストの弟子であり神の民である教会の中には種々の召命、役割がありますが、主はある人々を司教という任務にお召しになります。

昨年12月10日、教皇ベネディクト16世は、フランシスコ・ザビエル溝部 脩司教が高松教区の司教に転任されて以来空位だった仙台教区の司教に、仙台教区司祭マルチノ平賀徹夫神父様を任命されました。本日これより平賀神父様は司教に叙階されます。

司教の務めのなかで特に大切なのは福音宣教(福音化)という任務です。福音宣教とは端的に言って、神の愛を伝えることです。

平賀神父様、あなたは仙台教区の司教としてこの使命・任務をお受けになります。もちろん

これは教区の民全員の使命であり任務です。あなたは司教として、教区の責任者、代表として神の愛を現し、伝え、あかしする人となりました。

使徒ヨハネは繰り返し、「神は愛である」と説きました。主イエスは本日の福音で言います。「父がわたしを愛したように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい」「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」。

司教であるわたしたちは何をしなければならぬのか、どう生きなければならぬのか。平賀司教様の叙階という恵みのときにあらためてわたくしは考え思います。「愛」ということばはあいまいであり多義的です。この度、教皇ベネディクト16世は初めての回勅「神は愛である」を発表されました。教皇はご自分の教皇職の基本を「愛」においておられます。曖昧であり誤解される恐れがありますがそれでもわたくしは教皇に倣い神の愛、キリストの愛を司教職の基

本にすえたいと思います。愛は単なる観念ではありません

ん。愛は主イエスの生涯のなかを示され伝えられました。イエスの心と体全体で示された愛です。わたしたちの日々の生活で、言葉と行い、態度、小さな種々の事がらを通してイエスの生涯を示し伝えていかなければなりません。

皆様、今の時代をどう考えたらよいのでしょうか。多くの人は疲れ、悩み苦しんでいます。孤独、失望、挫折感に悩み苦しんでいます。生きる力と希望を示すことが最も大切な宗教者の使命ではないでしょうか。あなたがあなたとして大切であるということを伝え示していくことがわたしたち神の愛を信じるものの使命であります。

平賀神父様、どうか、日々神の愛を黙想し神の愛に生かされて、神の愛に促されて祈りとともに司教の職を務め、全うしてください。そのように生きるあなたの姿は何よりの福音宣教であり、教区の司祭、信徒、奉獻生活者の励まし、導き、希望となります。

神父様、司教はしばしば困難な状況に置かれ、適切な判断と決断をせまられます。あなたが賢明にして勇氣ある決断を下すことができるよう聖霊の恵みを切に祈ります。

司祭の皆様、司祭は司教の何よりの協力者であり、司祭なしに司教は何も出来ません。困難な任務を受諾した皆様の兄弟である平賀神父様を助け支えてください。

信徒の皆様、皆様は司教の励め、励まし、希望です。どうか祈りをもって、言葉と日々のはたらきをもって司教を助けてください。

奉獻生活者の皆様、日々の生活の使徒職をもって、神の国の到来をこの東北4県に住む人々に示し、人々の希望となってください。どうか皆様、よろしくお願います。

説教に聞き入る平賀司教



塩と光

ペトロの後継者であるローマ教皇と使徒たちの後継者である司教たちは、互いに強く結ばれています。従って、各教区はその教区司教を

とおして、教皇を中心とした世界の教会と固く結ばれています。また、教区は、司祭団の協力によって、神の民である教区民を司牧する教区司教に委ねられています。また、各小教区を、まさに教区の細胞として、信徒と司祭が、共に一致・協力して信仰共同体として育てていくのです。パウロはキリストの体である教会をどのように育てていくのかを教えてください。「わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ち溢れる豊かさになるまで成長するのです。・・・キリストにより、体全体はあらゆる節々が補つことによつてしっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によつて造り上げられてゆくのです」(エフェソ4・13・16) このように、各小教区が信仰共同体として力強く成長するとき、教区全体が強められます。(博)

叙階式・お祝いのごとば

アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ 教皇大使



日本の司教様方
司祭、修道士、修
道女の方々、キリ
ストにおける兄弟
姉妹の皆さん、この度私はベネデ
イクト16世教皇の名代として仙
台に参り、マルチノ平賀徹夫神父
様の司教叙階式に参加いたします
ことを大変嬉しく思います。新し
い司教様をお迎えなさる仙台教区
の皆様にとりまして今日の日はま
さしく大きな喜びの日であると存
じます。この度私は仙台教区の新
しい牧者、使徒たちの後継者、司
教団の一員となられた平賀徹夫司
教様を高く評価しておられること
を示す教皇様のサイン入りの任命
書を持参してまいりました。この
記念すべき日にあたり、私からも
個人的に仙台教区の皆様に対し心
からのお喜びを申し上げ、祝福を
お送りいたします。

野村純一司教(司教協議会会長)



マルチノ平賀司
教様そして仙台教
区の皆様、本日は本
当におめでとつこ
ざいます。仙台教区の皆様方が、
長い間仙台教区に司教が与えられ
るための祈りをささげていらっし
やったというのを知っておりま
す。皆様方の祈りが聞き入れられ

て、今日マルチ
ノ平賀徹夫司教
様という素晴ら
しい司教様があたえられました。

叙階式の最中この上から拝見して
います。目頭をこすつていらっ
しやる方々が見受けられました。
それくらい大きな喜びであったと
感じます。そして平賀司教様がモ
ットーとして、「光の子として歩
もう、何が主に喜ばれるかを吟味
しながら」を選ばれました。この
エフエソ書の言葉は光の子として
私たちは歩みましよう。そして私
たちは、何が主によるこばれるこ
とであるかを吟味しながら歩みま
しようという意味です。ですから
これは平賀司教様の「ご自分の決意
であると共に、私たちへの呼びか
けであると感じました。

平賀司教様を中心とする仙台教
区の皆様は力を合わせてこのモツ
トーの通りに歩んでいかれること
を願っております。それと共に、
司教団の一員となられました平賀
司教様を私も喜んでお迎えし、
共に日本の教会のために、キリス
トの福音の宣教のために、主が喜
んでくださることが何かを吟味
しながら、光の子として共に歩ん
でいきたいと思えます。

溝部 脩司教(高松教区長)



仙台教区の信徒
の皆様、修道者の
皆様、司祭の皆様
今日「お祝いに

あたり心からのおめでとつを申し
上げたいと思えます。仙台教区と
同じように高松教区でもこの1年
半、すべての小教区で仙台教区に
早く司教様が生まれるようにとお
祈りをささげてまいりました。

私は、仙台教区からいろいろな
ものをもらったと感じています。
私が高松に行くに当たり、いろん
な準備をして下さいました。教区
のシステム、会計システム、その
他いろいろなものをいただきました。
非常に感謝しております。
佐藤司教様が「くくなる時に最期
を看取ったとき、ありがとござい
ました」「ご苦労様でした」と声
に出していいました。今、平賀司
教様が就任するに当たり同じよう
に「ありがとございしました」と
いいたいと思っております。

私が仙台教区で一番学んだのは
一人ひとりが信仰を求めて、信仰
を深めて生きようとする姿です。
これが仙台教区の誇りでもいいと
ころだと思えます。私の説教をと
ても大事にしてくれました。仙台
教区が一番いいところは、ゆっく
りでも深く真理を求めていくとい
うところにあると思えます。

これからも今ままでとおり、一人
ひとりが目覚めて、深めて、信徒
の教会の実現に向けて歩んでくだ
さることを心からお願ひしながら
私の「挨拶」に代えさせていただき
ます。

川井啓神父(司祭団代表)



司祭団を代表し
て平賀司教様にお
祝いの言葉を述べ
させていただきます

平賀司教様、バクルスの冷たさ
と、重さはいかがでしたか(笑)。
平賀司教様は花巻の出身です。
岩手県人です(拍手)。岩手県には
宮沢賢治という素晴らしい人がお
りますが、今日こそ神が創られた
日、この世に平賀司教が誕生し歴
史のページを飾ることになりました。

平賀司教様のエピソードを紹
介します。それは、仙台教区の司
祭たちが集まる月例会のときのこ
とです。溝部司教様が忙しそうに
席に着きました。司教様のローマ
ンカラーが外れてブラブラしてい
ました。誰も注意しようとしな
いときに、花巻出身の平賀君が惻
隱の情を持ってそれをそつと教えて
あげたのです。

神様は素晴らしい司祭を仙台教
区の司教に上げられました。仙台
教区はこれから一つになって、新
しいページを力強く作っていくこ
とではありませんか。

里村智彦(信徒代表、八戸塩町教会)



平賀司教様おめ
でとつございませ
う。また今日の日
を待ちわびた仙
台教区
の皆様おめでとつ
ございませう。

溝部司教様が突然高松に転任さ
れて以来仙台教区は、一回目の司
教不在という迷える子羊の状況に
なりました。この不安な状況の中、
われわれは神様を信頼し、「仙台教
区に司教を求め祈り」を作り心
を一つにして祈つてまいりました。
その祈りが通じたのでしよう、今
日私たちは新しい司教様を迎える
ことが出来ました。本当に嬉しく
思っております。司教不在の間、
教区管理者として、いつも私たち
の中心にあり、大黒柱のように支
えになってくださったのが平賀司
教様でした。司教様は教区「ご出身
ということもあり、教区の隅々ま
でよくご存知であり、また、いつ
も控えめに、よく口にされていま
したのは」ともにある。「ともにい
きる」という言葉でした。これは、
神様がいつも共にいてくださり、
平賀司教様も私もそこにいるよ
うな気持ちで私たちを導いて下さ
いました。

私たち信徒はみな一緒について
いける、共に歩んで行けると感じ
ています。紋章にかかれた「光の
子として歩もう、何が主に喜ばれ
ることがかを吟味しながら」とい
うこの言葉を大切にしながら、こ
れから私たちは、平賀徹夫新司教様
と共に歩んでいければと思えます。

誌面の都合上、一部割愛、又は
要約させていただきます。

司教叙階式アルバム



満席の会場



レジナパークスホール



壇上に並んだ司教団と司祭団



入堂の行列



受階者の約束



最前列で呼び出しを待つ



諸聖人の連願の間ひれふす受階者



使徒座任命書を示す



諸聖人の連願を歌う

平賀司教様おめでとうございませう

お祝いのメッセージ

佐藤 トシ(元寺小路教会)

仙台教区に待ちに待った司教様が誕生されました、おめでとうございませう。

今日は、叙階式に日本中の司教様、神父様方々と一緒に参加できて本当に幸せを感じ、心より神に感謝いたしました。

どうぞ平賀司教様お体を大切になさって、仙台教区をお導き下さいます様お祈り申し上げます。

三宅 温子(東仙台教会)

新司教を与えられたこと、平賀司教様がその任をお受け下さったこと、心から感謝しております。御父に祈りながら、み旨を果たし

つちに見えるようで、心打たれま

す。司教様が与えられるよう祈り続けてきた日々でしたが、今日から

また新たな心で毎日お祈りを続けます。司教様が日々その務めを果たし続けるために必要な恵み、助けを神様が必ず与えてくださることを信じながら、そしてこの新しい時代を、私も共に歩ませて頂きます。心から感謝をこめて。

世界アイ子(ノートルダム・野田町修道院)

この喜びの日をどのようにならわしたらよいでしょう。私たち仙台教区民はどんなにこの日を待つ

続けるイエ

ス様のお姿が司教様の

つちに

てい

ました

でし

よう

ほん

と

うに

ら

で

す。

山下 暎子(松木町教会)

私

たち

の

司

教

に感謝です。神がこのような恵

みをくださったのですから、私

たちはこれからこの喜び、感謝を毎

日の生活の中に信仰を持って生き

なければならぬと決心しました。

主イエスが私たちを愛してくださ

ったように、神に創られたすべて

に愛をもって接し、愛を生きる人

生でありたいものです。

阿部 邦雄(西仙台教会)

平賀司教様の叙階式での感動！

92歳の私の72年間のキリスト者

としての生活の中、最も感動的な

ものとなりました。やはり自分と

同じ東北人の血の流れている人の

司教叙階のお祝いだからでしょう

か。いや、主が最も素晴らしい司

教というプレゼントを下さったか

らです。

らです。

山下 暎子(松木町教会)

私

たち

の

司

教

様

の

誕

生、

本

当

に

嬉

し

く

思

い

助任司祭時代のことがついこの間

のように思えます。

信徒のため、司祭のため今後お

体に気をつけて末永く司教様でい

られますよう心より祈っています。

音藤洋輔(9歳) 亮太(8歳)

古川教会)

4月

から

初

聖

体

の

勉

強

を

し

ま

す。

「今回は、様のごところに、ご聖

体をお持ちいたします」と申し上げ

ましたら、当時の平賀神父様は、そ

の病人の方のご容態は、今いかが

ですか」とお尋ねをいただきました。

私は長いことお手伝いさせて

いただいたていりでしたが、病人

の方の状態を尋ねられましたのは

平賀司教様が初めてでございま

した。

私は嬉しさのあまり涙がこみ上

げてまいりました。そしてその時

いと小さき者よ・・・互いに愛し合

いなさいとキリストの言葉が胸に

迫って参りました。

平賀司教様、雲上の人ではなく

いつも小さき者の側にいて下さ

います様お願い申し上げます。祈

りのうちに。

教皇ベネディクト16世の任命書



神のしもべたちのしもべ司教ベネディクトは仙台教区司祭、同教区被選司教、愛する息子マルチノ、平賀徹夫神父に挨拶と使徒祝福を送ります。

聖ペトロの後継者として私は主から託された群れの救いのためにいつも心をくだいています。

尊敬すべき兄弟フランシスコ・ザビエル溝部修司教が高松教区司教として任地に赴いた後の空位に新司教を任命するにあたって、愛する息子よ、私は、必要な才能に恵まれかつ当地の教会事情に通じているあなたがこの教区を統治するのが相応しいと判断しました。

福音宣教省の判断にもとづいて私は使徒的至上権を持ってあなたをすべての権利と義務をかねそなえた仙台教区司教として任命いたします。

司教叙階に際しては典礼法規を尊重する条件のもとローマ市以外のいかなるカトリック司教からでも叙階を受ける許可を与えます。また事前にカトリックの信仰宣言をし、そして教会法に従って私と私の後継者たちに忠誠を誓ってください。

さらに、仙台教区の聖職者および信徒たちにこの手紙の知らせが伝えられ、あなたを喜んで受け入れ、またあなたに一致するよう励ますようにしてください。

愛する息子よ、聖霊の恵みがあなたに豊かに与えられるよう心から祈ります。聖霊に助けられ、あなたに託された信徒たちを賢明に牧し、特に司祭職への召命、また教会および全人類の希望である若者たちや家庭に対する司牧に心を配ってください。

キリストの平和が、聖母マリアへの祈りによって、あなたと私の愛する仙台教区教会共同体とつねに共にありますように。

私の教皇在位第一年、西暦2005年12月10日
聖ペトロの墓の傍らにて、

お祝いメッセージは、133通寄せられました。(3/15現在) ありがとうございます。

平賀司教様おめでとうございませす

お祝いのメッセージ

三浦 豊蔵(北仙台教会)

祝司教叙階

聖霊続唱浩歌長

此日寒消臺満堂

着座呈祥天所許

仙台司教放輝光

(訓み下し)

聖霊の続唱 浩歌長し

此の日寒さ消ゆ 喜び堂に満つ

着座祥を呈し 天の許す所

仙台司教輝光を放つ

和田 孝(東京教会・三河島教会)

思い起こせば36年前、現在の岡

田大司教様、平賀司教様、そして

不肖私を含め、3人は上智大学の

スコラ哲学科を卒業した同期生で

した。その後、私は修道会を退会

しましたが2人の神学生は共に司

祭に叙階され立派な司教になられ

ました。私は今、ある修道会の第

三会員として社会の中でキリスト

を宣べ伝える一信徒として歩んで

います。道は違いましたが、キリ

ストの愛を人々に伝える情熱は衰

えるどころか、年をおうごとに強

まるばかりです。今日は、東京か

らはせ参じ、聖歌隊の一員として

思い切り心をこめて歌わせていた

だきました。待ちに待った仙台司

教誕生です。どうぞお体にはくれ

ぐれもお気をつけてお導き下さい

ますよつ。感謝のこころ。

佐藤 英樹

(豊屋丁教

会)

仙台教区司祭出身初の司教様の

誕生をうれしく思います。多くの

小教区を担当され、教区事務局長

教区管理者を歴任された方です

から、各地区の教会、修道院、カト

リック学校などにとつてよき牧者

となることでしょう。

司教目標は総花的でなく、「信

者をふやす」「青少年を育成する

など少しにしばってはどうぞしよ

うか。司教職は孤独なものでしよ

う。ストレスがたまりましたら呼

び出してください。仲間を誘って

駆けつけます。

小島 初代(高松教区・松山教会)

叙階式に参列し、感動でした。

司教様の「活躍をお祈りします。

聖ドミニコ宣教修道女会一同お祝

い申し上げます。

ブイ・キム・ロアン(12歳)(白

河教会)

平賀司教さま、おめでとうござ

いマス。わたしも、大きくなった

らシスターになります。

司教様も、お体を大事にして

ください。おいのりしていマス。司教

さまのしごと、がんばってください

い。

扇谷 國子(十和田教会)

神に感謝。式では、ただただ、

嬉しく、喜びで涙がこぼれました。

長いこと祈り、待ちました。「あ

あ：よかった、よかった」で終わ

らせることなく、味わった涙をし

っかりと受け止め、これから先の

仙台教区のために、祈りのうちに

日々歩みたい。

鈴木 和枝(高松教区・桜町教会)

高松より溝部司教様と共に晴れ

の叙階式に出席させて頂き、仙台

教区の皆様の温かい真心に接し感

謝で一杯でございます。これから

どうか高松教区と共に米国が来ま

すよう、頑張りたくよろしくお願

いいたします。私の信仰のルーツ

は、水沢教会と人首教会にありま

す。とても親しく感じています。

橋口 睦子(宮崎カリタス会)

司教様の叙階を私も日本管区

としても心からお喜び申し上げます。

白河で、仙台教区の使徒職の

ささやかな一端を担わせていた

いて下りますことを感謝し、これ

からもささやかながら一丸となつ

てご協力、申し上げます。

佐々木 郁子(盛岡上管教会)

1974年9月16日盛岡の白

百合学園で司祭叙階された時、私

も参列していました。司教様は、

私が洗礼を受けたゲーヴェル神

父様が働いておられる花巻教会出

身で、私にとつても大きな喜びで

した。そして今2006年3月4

日、仙台の百合学園での司教叙

階式、また参列できました。深い

感動はなかなかおさまりません。

時は四旬節を迎えたばかりなのに、

復活節の典礼聖歌「345」が頭

の中、特に「あなたのちえははか

りがない」を強く思っております。

工藤 勝二(八戸塩町教会)

待ち望んでいた今日、この日、喜

びを胸にバスに乗り込んだ朝

澄みし青き空と、真白き峰に心踊

り、明るく安らぐ高速バスの信徒

たち。詩句も歌も常でない荘厳

なミサの潤い、千余名の信徒の喜

びに満ちた会場。全国の司教団

一人ひとりの紹介も新鮮そのもの

。去り難き輝くレジナパースホ

ール。叙階式に参加できたこと

に感謝し、悩みつつ信徒の歩むべ

き道を、これからも考え続けたい

と願いながら、イエス・キリスト

の安らぎを新司教様に。

大内 和子(花巻教会)

平賀司教様が神父様になられた

ころ、亡き安井神父様が「平賀神

父は司教になられる人かもしれな

いよ」と予言者みたいにつぶやい

ていたことを思い出しました。き

つと天国で喜んでいらつしやると

思います。

高校生のころ、アルバイトにて、

友達との犬の散歩をお願いしたこと

もありました。

母子家庭の私の屋根の雪を無料

でおろしていただいたり、いろい

ろと思ひ出されます。

司教様になられ、喜びと共に、

お体のことが心配です。花巻より、

主のご加護をお祈りしております。

黒羽 真祈(八木山教会)

皆が一つになつて新司教誕生の

一瞬を喜びあえるいい式でした。

私が初めて教会に行き平賀神父

様のごミサにあずかったとき、と

てもわかりやすく説教をしてくだ

さる神父様だと思いました。それ

以上に司教様の微笑や言葉の奥に

優しい心を感じさせてくれました。

神様の愛つてきつとこんな風に心

を温めてくださるものなんだろう

など感じた瞬間です。これからは

さらに多忙な日々が続くと思いま

すがお体を大切にしながら、いつ

までも私たちの司教様でいらして

ください。

氏家 忠志(元寺小路教会)

平賀司教誕生万歳!!

主はいわれる、「私が選んだ器で

ある」とのみことば。

私たちは主を信じて生きて行き

ます。司教様には、「信仰とは神様

を信頼して生きること」の源泉を

教え導いていただきました。

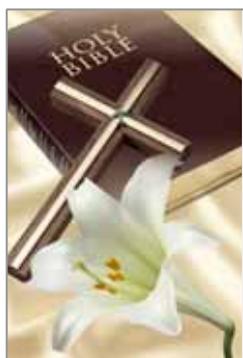
司教紋章の主旨がとも素晴ら

しく心の奥底をえくり、燃やして

います。み旨のうちに「光の子」

として主の食卓にあずかりたいと

記念します。神に感謝



司教叙階式アルバム



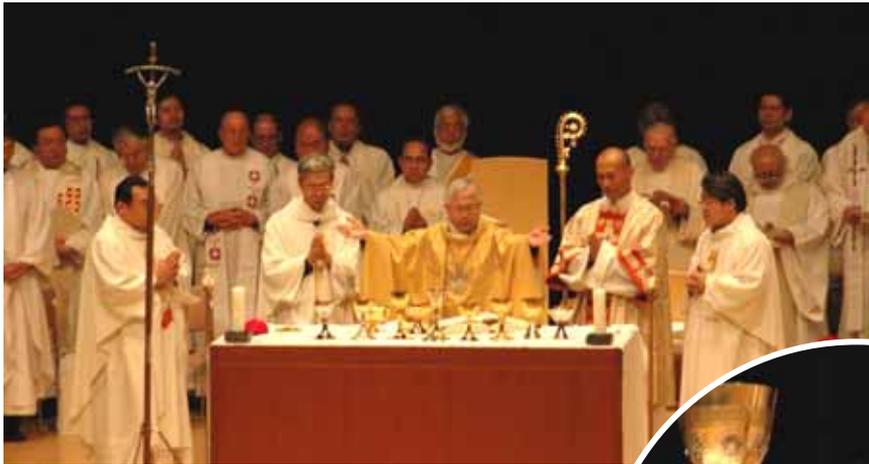
溝部司教の授手



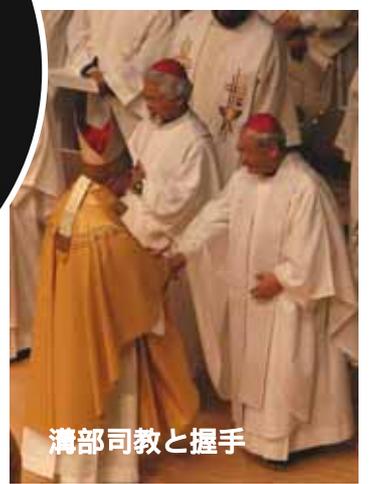
岡田大司教の授手



バクルスの授与



会場を巡り参列者を祝福



溝部司教と握手



若者たちと記念撮影



荘厳祝福

平賀司教様おめでとうございます

高橋和郎(久慈教会)

高山右近の列福を求める祈りの中に私の意向として、平賀神父様の司教叙階を願って毎朝祈り続けました。昨年8月中ごろに夢で溝部司教様が現れ、私に「あなたの願いのために大変です」と言われました。決定の報を知ったとき全身熱くなり涙が出ました。

司教様、私はあなたの命に従います。

中村滋子(四ツ家教会)

『光の子として歩もう、何が主に喜ばれるかを吟味しながら』司教様のお人柄が偲ばれた心に染み入るみことばでした。

司教様の思い、お考えがすべての人々の心に届きますように。そ

して、これからたどら

れるであろう主キリストの歩ま

れた同じ道「苦い杯の道」にも聖なる喜びが与えられ、司教様を助け、守り支え、真ある『惻隠(そくいん)の情』に恵まれますように祈り申し上げます。限り

ない神のはからいに感謝。

高橋みどり(古川教会)

川井神父様に、そして私たち小さな集まりの古川教会に心を配り下さりまして、隔週お出でいただき、「ミサをささげて下さいましたお恵みを心に刻み、司教様がご健康に留意され、ご活躍いただけますよう古川教会の子供たちはお祈りいたしております。

江刺昌子(北仙台教会)

思いもよらず新司教様からご

聖体をいただく大きな恵みにあ

ずかることが出来ました。

司教様を間近に仰ぎ嬉しさで喜びおどりました。感動の嵐が体中を駆けめぐったのです。司教様は柔和で輝いておられ、『主は共におられる・マリア賛歌』そのものでした。

司教様、どうか私ともに「光の

子として歩もう、何が主に喜ばれるかを吟味しながら」を共に歩ませてください。言葉では言い表すことが出来ませんが、感謝、感謝、感謝のみです。ありがとうございます。これからも健康であられますよう願っております。

坂本健一(須賀川教会)

私は去年ヨハネ・パウロ2世教皇様が亡くなられてからカトリックに興味を持ち始めました。そ

して教会に通うようになり、今年の復活祭に洗礼を受けました。

これからも主の教えを守り、光

の子として人生を歩みたいと思います。須賀川に来てくださることを楽しみにしています。

鈴木和義(西仙台教会)

ことの外寒さが厳しかった1977(昭和52)年の1月に、西仙台教会でお会いした時以来、類い稀な資質に恵まれたご人格に引かれて、お慕い申し上げておりました。この度の司教叙階は考

えれば当然のように感じられます。今後は、すべてを神様のみ手に委ね、細かいことにとらわれずに、気を大きく持って、一日も長く教区の信徒たちの良き牧者としてお勤めを果たされることを、お祈り申し上げます。

司教様の指輪



ローマに工房を持つジュエリーデザイナー長井豊氏の作。モットーがラテン語で刻まれている。

2006年 新年合同礼拝

を自由にする(ヨ

プロテスタントとカトリッ

クの兄弟姉妹がともに集い、

ともにみことばに耳を傾け、

ともに神を賛美し、ともに祈

る時である新年合同礼拝と新

年合同祈禱会が今年も仙台キ

リスト教連合の主催で開かれ

た。新年合同礼拝では、元旦

の午後日本基督教団仙台青葉

荘教会に集った90名の人々を

前に、氏家和仁神父が説教を

行った。氏家神父は、「新た

な時を愛なるイエスがあなた

ハネ8・31・38」と題して、「本

当に私たちは悔い改めとゆるし

の中を生きているのだろうか」

と問いかけ、カナダのオタワで

パストラル(司牧)研修のため

に訪れた病院と刑務所での体験

をもとに、私たちを自由にして

くれる道、真理である唯一の方

を示された。なお、新年合同礼

拝・合同祈禱会の説教をお聞き

になりたい方は、担当の高梨光

太郎(& Fax 022 287

3796)までご連絡ください。



叙階式の献金は、総額690,081円でした。下記の諸団体にご寄付させていただきます。

- 仙台ダルク
 - 炊き出しの会
 - 東京カトリック神学院
 - カリタス・ジャパン
- ありがとうございました。

カトリック仙台教区本部事務局
事務局長 和野 信彦

公開講演会のご案内

演題「ふるさとの言葉で神様の息吹を ケセン語訳聖書が目指す新しい世紀」

講師 カトリック大船渡教会
医学博士 山浦玄嗣氏

日時 平成18年4月23日(日)
午後2時~4時

場所 カトリック元寺小路教会
大聖堂

主催 日本カトリック医師会
仙台支部

どなたでもお気軽においで

ください。入場無料です。

(問合せ) 仙台支部事務局

022 265 5788)

仙台キリシタン殉教祭

現代社会に苦しむ人々を結んで

2月26日(日)仙台市青葉区西公園内にある広瀬川殉教碑前で仙台キリシタン殉教祭が北仙台教会主任司祭レイモンド・ラトゥール師司式で行われた。

朝からの雨も殉教祭が始まる頃には止み130人ほどの参加者があった。

祭りは典礼聖歌「流れのほとりの木のように」で始まり、「殉教者によって語られるみことば」と題して、それぞれの殉教者の名前が記されたプラカードを付けた信徒「写真」8名によってみ言葉(マタイ5・1)が読まれ、殉教者の声と現代の苦しむ人の代弁者となり



参加者に向けメッセージとして呼び掛け、共同祈願を唱えるという例年とは異なるスタイルで行なわれた。



次に参加者は、殉教者達が水攻めにされた広瀬川に向かって黙祷をささげた。

カルワリオ神父のプラカードをつけたラトゥール神父「写真」が殉教者と、現代の苦しむ人々のために祈りをささげた。

撒水と献香に続いて仙塩8教会代表者によって、殉教碑に献花、参加者全員による殉教者崇敬が行われた。

聖歌「こらんよ空の鳥」を歌って閉祭した。

今回の殉教祭を担当した北仙台教会では、典礼委員会を中心に新しい企画で殉教祭をしようとして工夫し、江戸時代の殉教者と現代社会の中で苦しむ人々を結んだ殉教祭となった。

今年、殉教碑の周辺には、ホームレスの方々のブルーシートが並び、殉教者と苦悩を共にしているかのような様に感じられた。

フィリップ先生 さようなら

ラ・サール会ブラザー・フィリップ(前仙台修道院院長)が、昨年12月21日、カナダで急逝73歳。

25歳で来日し、昨年4月帰国されるまで47年間、日本で宣教教育活動に尽力された。日本でもブラザーを偲び、追悼ミサが1月28日、東仙台教会で執り行われた。エメ神父をはじめ司祭5名、教会関係、友人など二百数十名が参列した。



35年間親交のあったエメ神父は、温かく人間関係を大切にされた人柄にも触れ、聖書勉強会、幼稚園、各地域での英語教室、若者の黙想会指導など、これまでの活動に感謝の言葉を述べられた。

聖書勉強会で学んだ東仙台教会のSさんは「先生はどんな質問にも親切、ていねいに答えてくれました。ハイキングや温泉にも一緒しました。立派になった教会を見て欲しかったです」と話された。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

春の後藤寿庵大祈願祭

後藤寿庵の威徳を偲び、豊作を祈るこの祭りに皆様のご参加を心からお待ち致しております。

日時・5月28日(日)

午前10時

場所 岩手県奥州市水沢区福原

寿庵廟前

カトリック水沢教会

寿庵祭実行委員会



訃報

Br. フィリップ・ラポイント



ラ・サール会修道士
2005年12月21日 オタワにて帰天

73歳

1950年 ラ・サール会入会

1958年 来日

1997年 仙台にて活動

司教館建設委員

聖書勉強会の指導

カトリック学校教員勉強会指導

ナザレト幼稚園英語教室

若者たちの黙想会指導等、精力的に活動された。

2006年1月28日 カトリック東仙台教会にて追悼ミサが行われた。

スールマリ真知ドクリスト

O.P. 猪俣真知

磐梯町 ドミニコ会雪の聖母修道院



1944年1月24日 誕生

1968年2月11日 受洗

1971年6月18日 入会

ドミニコ会雪の聖母修道院

1974年6月17日 初誓願

1977年6月17日 荘厳誓願

2006年2月4日 帰天(62歳)

歓喜の歌声に包まれ カテドラルで初ミサ

四旬節第一主日・洗礼志願式



賀司教は、歓喜の歌声に迎えられて祭壇に登った。

この日は、四旬節第一主日であり、復活祭に洗礼を受ける13名の洗礼志願式が行われた。

平賀司教初ミサ説教

平賀徹夫と申します。(笑)。昨日、仙台白百合学園の講堂で司教に叙階されました。

司教空位の間、皆さんと共に一日もはやく仙台教区に司教を迎えることが出来ますようにと祈ってきました。その結果がこうです(笑)。私を司教に祭り上げておいて、下からはしごをはずさないでください(笑)。

司教就任にあたって、昨年東京補佐司教となられた幸田和生司教が叙階のときのモットーとされた、聖アウグスティヌスの言葉を私も使用させていただきます。それは、「私はあなた方のために司教であり、あなた方と共にキリストの信者です」という言葉です。「あなた方のために司教である」ということは、「あなた方に仕えるた

めに私はある」ということです。私はキリストのもとに集まってきた人たちの接着剤、のりになれたらいいと思っています。

第二に「信者である」ということについて、今日は四旬節第一の主日で、洗礼志願式を行うのですが、洗礼志願者は今日から心をこめて信者としての決心を高め、教会の人々と一致していく期間であり、すでに洗礼を受けている人たちは改めてそれを思いおこす期間です。皆が信者としてこれから一緒に歩んでいくのであり、司教である私は皆さん方を結ぶのりとしてそこにいます。

洗礼とは肉の汚れを取り除くことではなく、神に正しい良心を願うことです。神に正しい良心を願うためには信者が一致して進んでいくことが大事です。

イエスはヨハネから洗礼を受けた後に「霊」によって荒野に追い出されます。荒野野は現実の世界、砂漠と言うことも出来る。イエスは毎日毎日辛い悲しいことを経験します。イエスはサタンから「誘惑」を受けました。「誘惑」はギリシア語では「試練」とも訳されます。現実の困難を「誘惑」にしてしまっか、それとも「試練」とし

て受け入れることができるかどうかは、私たち自身の決断にかかっているのです。そして、私たちが困難に遭遇するのは避けられないけれども、それを「誘惑」にしてしまっことなく、「試練」にして下さい、と共に祈りましょう。

私はあなた方のために司教であり、あなた方と共に信者です。私はのりになり、あなた方と共に一体となり一緒に歩みたいと願っています。

ミサ後の祝賀会

ミサの後、カテドラル前の広場で祝賀会が行われ、司教様を奪い合うようにして記念写真を撮るグループや、挨拶のために順番を待つ人たちにぎわった。



叙階式の興奮も冷めやらぬ翌3月5日(日)元寺小路教会カテドラルで、平賀新司教の初ミサが行われた。ミサには仙台中央地区6教会から約600名を越す信徒が参列した。

教会法では、新たに任命された教区長は、出来るだけ速やかに教区内の小教区を訪れミサをささげることになっているが、カテドラルでの初ミサはそ



洗礼志願式